

学位論文審査の結果の要旨

1. 申請者氏名	藤澤 憲
2. 審査委員	主査：（鳴門教育大学教授） 田中 淳一 副主査：（鳴門教育大学教授） 高橋 眞琴 委員：（兵庫教育大学教授） 遊間 義一 委員：（兵庫教育大学教授） 石倉 健二 委員：（鳴門教育大学教授） 川上 綾子
3. 論文題目 知的障害児における感覚刺激を活用した学習支援に関する研究	
4. 審査結果の要旨 学校教育実践学専攻学校教育連合講座 藤澤憲 から申請のあった学位論文について、兵庫教育大学学位規則第16条に基づき、下記のとおり審査を行った。 論文審査日時： 令和4年2月5日（土） 13時50分～14時40分 場 所： Web会議システム（Zoom）による実施 1. 学位論文の構成と概要 本研究は、知的障害児童生徒において、多重感覚、視覚および触覚を活用した活動により生じるコミュニケーションや行動の変容とそれに伴う生理的指標の変動を検討することにより、感覚を活用した学習支援の有効性を明らかにすることを目的としている。本論文は全7章で構成されている。 第1章では、感覚と障害及び学習に関する研究の動向を示し、知的障害者への学習支援としての感覚活用の可能性を述べた上で、本研究の目的と研究の構成を示した。 第2章では、就学を目前とした自閉スペクトラム症幼児と知的発達症幼児に対して、多重感覚を活用したペアリングインタラクションを促す取組を試み、多重感覚を活用したプログラムの効果を示した。試行を重ねるごとに、多重感覚の教材・教具を媒介として、幼児と支援者との関係を軸に、幼児同士の関わりの機会が増え、両幼児は相手の気持ちに立ち、話を待つことができるようになり、相互のコミュニケーションが促進されることを見出した。 第3章では、医療的ケアを必要とする児童において、ハンドメイドの多重感覚環境を活用する授業では、経皮的動脈血酸素飽和度（SpO2）は変化せず、心拍数が減少し、行動面の所見からも落ち着きや情緒を安定がはかられることが示された。そして、その結果が児童の主體的な要求の表出へ	

とつながり、児童と授業者の相互交渉（やりとり）が促進されるようになることから、多重感環境を活用した学習は、身体の動きやノンバーバルのコミュニケーションをはかる上で効果的であることが示唆された。

第4章では、情緒不安のある知的障害生徒や健常生徒において、薄暗い環境下でのバブルチューブによる視覚刺激が心拍数を低下させることや、知的障害生徒では、試行を重ねるに連れて情緒の安定が促進されることから、視覚刺激は心機能に反映される心理的な安定をもたらすことが示めされた。

第5章では、知的障害生徒及び健常生徒の皮膚電位水準（SPL）及び皮膚電位反射（SPR）の変動より、知的障害生徒と支援者との会話に伴うリラクゼーションの出現や覚醒状態や集中度が、健常生徒と異なることを示した。また、スライムを用いた触覚刺激が、知的障害生徒の覚醒状態や注意力を高め、活動後のリラクゼーションへの導入及び情緒の安定に効果的であることが示唆された。

第6章では、スライムによる触覚を活用した学習支援により、教員の話しかけに応じた生徒の相互交渉成立頻度が高まり、コミュニケーションの向上につながることや、支援終了直後には情緒が安定した状態で次の活動への集中度が高まることが示された。

第7章では、第2章から第6章までの研究結果をまとめ、知的障害児童生徒における感覚活用の有効性について論じた。また、本研究で得られた知見の学校教育への活用について提示し、今後の課題をまとめた。

2. 審査経過

（1）研究の独創性及び発展性

本研究は、感覚を活用した学習支援の効果に関する評価を学習面や行動面からに留まらず、生理的指標を取り入れてより客観的な評価を行った点は独創的であり、知的障害児童生徒の感覚刺激に対する特性に関する知見を提供していることが評価された。本研究において、多重感覚環境、視覚及び触覚刺激活用により、リラックス効果や落ち着きなど情緒の安定がはかられること、様々な活動への主体的な促進がはかられること、及び人間関係の形成やコミュニケーションが向上することが示されており、これらは学習支援を考える際に重要とされることから、さらなる発展が期待される。

（2）学校教育実践への貢献

本研究は、感覚刺激を活用することで、学習効率の向上や行動を制御するための方法に関する示唆を提供できること、子どもの感覚面の実態把握が可能になり、感覚面に関する指導の工夫や評価が容易になること、及び多重感覚による有効的な環境設定が可能となることを示している。本研究の成果は、子どもたちの感覚面の実態把握や評価の手助けとなり、感覚面に関する指導の工夫や、感覚を活用した学習支援の展開に役立つことから、教育実践に貢献できると考えられる。

3. 審査結果

以上により、本審査委員会は、藤澤憲の提出した学位論文が博士（学校教育学）の学位を授与するにふさわしい内容であると判断し、全員一致で合格と判定した。